別添 2

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）

《省令で定める単位数等の基準数相当分》

基準数相当分のみ掲載

理学療法学科昼間部 ： 9 単位分+ α

作業療法学科昼間部 ： 9 単位分+ α

令和６年度

科　目　名	物理療法学	単位数	2	学科	理学昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	山内　智恵	実務経歴	医療機関において 20 年以上、整形外科疾患、中枢神経疾患などを中心に幅広く経験してきた。
担　当　教　員	山内　智恵		
概　　要	各物理療法について基礎的な知識を身につけ、臨床場面での適応・禁忌を判断できるようになる。併せて、将来の理学療法士にふさわしい視点と態度を身に付ける。また、後期の物理療法学演習に円滑に移行できるよう学習する。		
一般目標（GIO）	①　各種物理療法の原理・作用を習得する。 ②　各種物理療法の適応・禁忌を判断できるようになる。 ③　物理療法適応時の対象者への配慮を考えることができる。		

教　　科　　書	crosslink理学療法学テキスト　物理療法学　メジカルビュー
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	生理学・解剖学の復習を随時行い、講義に参加すること。

実施回	授業内容	対応 CC	担当教員
1	物理療法学総論	E-5-2	山内
2	温熱療法①　総論・ホットパック・パラフィン浴	E-5-2	山内
3	温熱療法②　極超短波・超短波	E-5-2	山内
4	光線療法　赤外線療法・紫外線・低反応レーザー	E-5-2	山内
5	超音波療法	E-5-2	山内
6	寒冷療法	E-5-2	山内
7	水治療法	E-5-2	山内
8	牽引療法	E-5-2	山内
9	電気刺激療法①　総論①	E-5-2	山内
10	電気刺激療法②　総論②	E-5-2	山内
11	電気刺激療法③　各論TENS・NMES	E-5-2	山内
12	電気刺激療法④　各論IFC・PNS	E-5-2	山内
13	電気刺激療法⑤　各論MES・FES	E-5-2	山内
14	筋電図バイオフィードバック療法	E-5-2	山内
15	振動刺激療法・体外衝撃波療法	E-5-2	山内

	評価手段	割合(%)	基準および方法
成　績　評　価	定期試験		評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60%以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	平常評価		

令和６年度

科　目　名	筋骨格障害系理学療法学	単位数	2	学科	理学昼間	期	後期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	本間　伸晴	実務経歴	平成１５年度より医療施設にて整形外科疾患、中枢神経系疾患など幅広く臨床を経験し、リハビリテーション部門責任者として、リハビリテーション部全体の管理・運営、他部門調整などの職務を担当。
担　当　教　員	本間　伸晴 鈴木由紀子		
概　　要	筋骨関節疾患は臨床において多い。その為、筋骨関節障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ事が臨床での治療・リハビリテーションに結びつける事が出来る。		
一般目標（GIO）	筋骨格障害系理学療法学の対象疾患について理解を深め、実践に役立つ技術を身につける。		

教　　科　　書	「運動器障害理学療法学テキスト　改訂第２版」　南江堂
参考書・教材	内容を踏まえた資料を配布する。
履修上の注意点	特に無し。

実施回	授業内容	対応 CC	担当教員
1	総論・関節構造の復習	E 6-1）①②	本間
2	脊椎性障害	E 6-1）①②	本間
3	変形性関節症（総論・脊椎）	E 6-1）①②	本間
4	変形性関節症（膝）	E 6-1）①②	本間
5	変形性関節症（股関節）	E 6-1）①②	本間
6	関節軟部組織性障害	E 6-1）①②	鈴木
7	関節軟部組織性障害	E 6-1）①②	鈴木
8	関節構造に由来する障害	E 6-1）①②	鈴木
9	骨性障害	E 6-1）①②	鈴木
10	骨性障害	E 6-1）①②	鈴木
11	骨性障害	E 6-1）①②	鈴木
12	筋・軟部組織性障害	E 6-1）①②	本間
13	筋・軟部組織性障害	E 6-1）①②	本間
14	関節リウマチ	E 6-1）①②	本間
15	まとめ	E 6-1）①②	専任

	評価手段	割合(%)	基準および方法
成　績　評　価	定期試験	100	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。

令和６年度

科　目　名	中枢神経障害系理学療法学	単位数	2	学科	理学昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	伊藤　昇平	実務経歴	平成 24 年度より医療施設に勤務し、脳血管障害を中心に内部障害、整形外科疾患に対する理学療法を幅広く経験してきた。
担　当　教　員	伊藤　昇平		
概　　要	脳出血や脳梗塞による脳血管障害は後遺症が残ることが多く、リハビリテーションの現場ではよく遭遇する疾患である。近年では運動発達学や神経生理学の知識が評価や治療に応用されている。従ってリハビリテーションに携わる医療従事者は神経学の基礎と臨床の両面における知識が要求される。		
一般目標（GIO）	脳血管疾患の理学療法を主体に、脳・脊髄にわたる障害の知識を統合し、治療に向かう一連の流れを理解する。		

教　　科　　書	「中枢神経障害理学療法学テキスト」改訂第３版　　南光堂
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回	授業内容	対応 CC	担当教員
1	中枢神経障害の全容	E 6-2）①②	伊藤
2	中枢神経障害の全容②	E 6-2）①	伊藤
3	片麻痺の原因、脳血管障害とは	E 6-2）①	伊藤
4	中間まとめ	E 6-2）①②	伊藤
5	脳血管障害の診断と急性期治療	E 6-2）①	伊藤
6	片麻痺患者の評価①	E 6-2）①	伊藤
7	片麻痺患者の評価②	E 6-2）①	伊藤
8	重症片麻痺例に対する回復期理学療法の実際①	E 6-2）①	伊藤
9	軽症片麻痺例に対する回復期理学療法の実際①	E 6-2）①	伊藤
10	日常生活における身体機能の活用	E 6-2）①	伊藤
11	片麻痺者に見られる合併症とその対策	E 6-2）①	伊藤
12	高次脳機能障害・嚥下障害と理学療法	E 6-2）①②	伊藤
13	運動失調とは	E 6-2）①②	伊藤
14	小脳性運動失調の理学療法	E 6-2）①②	伊藤
15	パーキンソン病	E 6-2）①②	伊藤

	評価手段	割合(%)	基準および方法
成　績　評　価	平常試験		評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および平常試験，出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験		

令和６年度

科　目　名	発達障害系理学療法学	単位数	2	学科	理学昼間	期	後期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	西田　万里	実務経験	平成 17 年より医療施設に勤務し、小児分野を中心に中枢神経疾患、整形外科疾患などを臨床現場で幅広く経験してきた。
担　当　教　員	西田　万里		
概　　要	正常発達を把握した後、発達時期において中枢神経系あるいは末梢神経系に障害を受けた児・者の理学療法の評価・治療方法について講義する。主に脳性麻痺について症状、合併症、禁忌事項を学ぶ。人間発達学、小児科学、運動学、臨床神経学、理学療法概論、理学療法評価学等の知識を踏まえて講義する。		
一般目標（GIO）	胎生期、乳幼児期における発達過程について理解する。代表的な小児疾患（脳関麻痺）については、疾患概要を理解し、その理学療法経過や治療について説明・実施できるようになる。その他の疾患に関しては疾患概要や理学療法経過を理解し説明できるようになる。C-3、E-6）		

教　　科　　書	小児理学療法学テキスト　南江堂　改訂第３版
参考書・教材	正常発達　第２版　脳性まひの治療アイディア
履修上の注意点	

実施回	授業内容	対応 CC	担当教員
1	正常発達（周産期の発達、新生児期の姿勢反射・反応）	C-3-1)②	西田
2	正常発達（新生児期以降の姿勢反射・反応）	C-3-2)①	西田
3	正常発達（0～3 ヶ月の運動発達）	C-3-2)①②	西田
4	正常発達（4～6 ヶ月の運動発達）	C-3-2)①②	西田
5	正常発達（7～12 ヶ月の運動発達）	C-3-2)①②	西田
6	正常発達（上肢機能・口腔機能の発達）	C-3-2)①-③	西田
7	正常発達（まとめ）	C-3-2～3	西田
8	脳性麻痺総論	E-6-4)①	西田
9	脳性麻痺（痙直型両麻痺）	E-6-4)①	西田
10	脳性麻痺（痙直型四肢麻痺、痙直型片麻痺）	E-6-4)①	西田
11	脳性麻痺（アテトーゼ型、失調型）	E-6-4)①	西田
12	脳性麻痺の評価と治療①	E-6-4)①	西田
13	脳性麻痺の評価と治療②	E-6-4)①	西田
14	その他の疾患	E-6-4)②	西田
15	その他の疾患	E-6-4)②	西田

	評価手段	割合(%)	基準および方法
成　績　評　価	定期試験		評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。

令和６年度

科　目　名	神経筋障害系理学療法学	単位数	1	学科	理学昼間	期	後期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	本 間 伸 晴	実務経験	平成 15 年より医療施設に勤務し、中枢神経疾患、神経内科疾患、整形外科疾患などを中心に臨床現場で幅広く経験してきた。
担　当　教　員	本 間 伸 晴 山 内 智 恵		
概　　要	脳血管疾患や脳外傷を除く、神経および筋の変性に起因する疾患についての病態生理を理解し、病態を考慮した理学療法評価および基本的理学療法を理解する。		
一般目標（GIO）	代表的な疾患については、その理学療法経過について理解する。なお、それぞれの疾患別に、実習を含めて取り組むことを想定する①「実施できる」とするものと、講義に留めても構わない②「説明できる」とに区分して整理し列挙している。E-6)		

教　　科　　書	「神経障害系理学療法」　　医歯薬出版
参 考 書 ・ 教 材	「標準理学療法学　専門分野　運動療法学」医学書院　他　適宜資料を配布する。
履修上の注意点	特になし

実施回	授業内容	対応 CC	担当教員
1	総論：概要、種類、神経原性疾患と筋原性疾患の特徴、予後と治療	E-6-2･3)	本間
2	パーキンソン病①	E-6-3)②	本間
3	パーキンソン病の理学療法②	E-6-3)②	本間
4	小脳疾患（脊髄小脳変性症）①	E-6-2)①	本間
5	小脳疾患の理学療法②	E-6-2)①	本間
6	脊髄損傷＋脊髄疾患	E-6-2)②	本間
7	中間まとめ	E-6-2･3)	本間
8	ミオパチ（進行性筋ジストロフィー）①	E-6-2)①	山内
9	ミオパチ（その他、筋疾患）②	E-6-2)①	山内
10	筋萎縮性側索硬化症	E-6-3)②	山内
11	症例検討①	E-6-2･3)	専任
12	症例検討②	E-6-2･3)	専任
13	ニューロパチ（ギランバレー症候群）	E-6-2)②	山内
14	脱髄疾患（多発性硬化症）	E-6-2)②	山内
15	まとめ	E-6-2･3)	専任

	評価手段	割合(%)	基準および方法
成　績　評　価	定期試験	100	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。

科目区分：　作業療法評価学　　(33)　令和６年度

科　目　名	基礎作業療法評価学	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	白田　典正	実務経験	身体障害、高齢期、精神障害の臨床経験により、領域共通の評価の基礎について学んだ。
担　当　教　員	白田　典正 佐藤　正輝		
概　　要	作業療法は「評価に始まり、評価に終わる」といわれる。本科目では評価学の基礎、対象者の心身の状態を把握するのに必要な領域共通の情報収集、各種検査測定等の評価方法について学習する。		
一般目標（GIO）	対象者にとって意味ある作業が可能かどうかを探求するためやその支援のために必要な評価に関する知識と技術を習得する。(F-1)		

教　　科　　書	「作業療法評価学　第３版」 医学書院 講師作成資料（配布プリント含む）
参考書・教材	
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO（対応 CC）	担当教員
1	評価学基礎:評価の意義･目的	F-1-1)①	白田　他
2	評価学基礎:対象と過程、手順	E-1-1)③⑩	白田　他
3	評価学基礎:治療計画、記録･報告、効果判定	E-1-1)⑫	白田　他
4	領域共通の評価法:面接･観察、形態計測、意識･バイタルサイン	F-1-1)②③④⑤	白田　他
5	領域共通の評価法:ROM―T　①	F-1-1)⑥	白田　他
6	領域共通の評価法:ROM－T　②	F-1-1)⑥	白田　他
7	領域共通の評価法:ROM－T　③	F-1-1)⑥	白田　他
8	領域共通の評価法:ROM－T　④	F-1-1)⑥	白田　他
9	領域共通の評価法:ROM－T　⑤	F-1-1)⑥	白田　他
10	領域共通の評価法:MMT　①	F-1-1)⑦	白田　他
11	領域共通の評価法:MMT　②	F-1-1)⑦	白田　他
12	領域共通の評価法:MMT　③	F-1-1)⑦	白田　他
13	領域共通の評価法:MMT　④	F-1-1)⑦	白田　他
14	領域共通の評価法:MMT　⑤	F-1-1)⑦	白田　他
15	知覚検査、まとめと試験範囲の説明	F-1-1)⑨	白田　他

成　績　評　価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。

科　目　名	日常生活活動学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡　幹彦	実務経験	総合病院にて４年半、日常生活活動の評価・支援に従事した。
担　当　教　員	高橋　真紀 白田　典正		
概　　要	・日常生活活動・手段的日常生活活動（IADL）に対する作業療法の概念、評価、作業別支援について理解・説明できるように座学を中心に学習を行う。		
一般目標（GIO）	・日常生活活動・IADL の概念について説明できる(F2-8①) ・日常生活活動・IADL の評価について説明できる(F2-8②) ・日常生活活動・IADL における作業別の支援について説明・模擬実践できる(F2-8③)		

教　　科　　書	・「PT・OTビジュアルテキスト　ADL」羊土社
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO（対応 CC）	担当教員
1	日常生活活動の概念	F2-8①	福　岡
2	日常生活活動の評価	F2-8②	福　岡
3	起居	F2-8③	白　田
4	移乗	F2-8③	白　田
5	移動	F2-8③	白　田
6	交通機関の利用、自動車運転	F2-8③	白　田
7	食事	F2-8③	白　田
8	整容・更衣	F2-8③	福　岡
9	排泄・入浴	F2-8③	福　岡
10	基礎的な移乗とその介助法	F2-8③	福岡・他
11	基礎的な移乗とその介助法	F2-8③	福岡・他
12	炊事	F2-8③	高　橋
13	掃除	F2-8③	高　橋
14	買い物・経済管理、睡眠・栄養・運動	F2-8③	高　橋
15	趣味活動・社会参加	F2-8③	高　橋

成　績　評　価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。

科目区分：　作業療法治療学　　(50)　令和６年度

科　目　名	老年期障害作業療法治療学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	谷口　賢一	実務経験	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションでの実務経験がある。
担　当　教　員	高橋　真紀 谷口　賢一		
概　　要	老年期の特徴とリハビリテーションについての理解を深め、老年期をとりまく社会資源を知り、その連携のあり方を探る。また、老年期に対する作業療法とその役割を考える。		
一般目標（GIO）	高齢期障害に対する基本的な作業療法について理解する。(F-2-7)		

教　　科　　書	標準作業療法学（専門分野）高齢期作業療法学　第３版　医学書院 高齢期における認知症のある人の生活と作業療法　第２版　三輪書店
参考書・教材	講師配布資料
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	老年期にある対象者の作業療法の理念と役割について	F-2-7)①	高　橋
2	高齢者・高齢社会について①	F-2-7)①	高　橋
3	高齢者・高齢社会について②	F-2-7)①	高　橋
4	高齢者・高齢社会について③	F-2-7)①	高　橋
5	老年期と作業療法について①	F-2-7)①	高　橋
6	老年期と作業療法について②	F-2-7)①	高　橋
7	老年期と作業療法について③	F-2-7)①	高　橋
8	作業療法の実際～老年期障害別作業療法　高齢期に多い疾患①	F-2-7)②	高　橋
9	作業療法の実際～老年期障害別作業療法　高齢期に多い疾患②	F-2-7)②	高　橋
10	高齢者の評価	F-2-7)①	谷　口
11	認知症の作業療法①	F-2-7)②	谷　口
12	認知症の作業療法②	F-2-7)②	谷　口
13	認知症の作業療法③	F-2-7)②	谷　口
14	認知症の作業療法④	F-2-7)②	谷　口
15	認知症の作業療法⑤	F-2-7)②	谷　口

成　績　評　価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	80	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および平常評価（レポート、出席状況や授業態度など）を総合的に評価する。
	レポート	20	

科目区分：　地域作業療法学　　(55)　令和６年度

科　目　名	地域作業療法学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	谷口　賢一	実務経験	科目内容について、作業療法臨床に従事した経験を十分に有する。
担　当　教　員	谷口　賢一		
概　　要	地域リハビリテーション、地域作業療法の基礎について学習する。職業リハビリテーションや領域ごとに地域作業療法について概説し、作業療法士の役割や必要な技能について理解を深める。		
一般目標（GIO）	地域における基本的な作業療法について理解する（F-3-1） 就労支援領域における基本的な作業療法について理解する。(F-3-2) 住環境整備と支援機器に関わる基本的な作業療法について理解する。（F-3-3）		

教　　科　　書	標準作業療法学専門分野　地域作業療法学第4版
参考書・教材	講師配布資料
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO（対応 CC）	担当教員
1	地域リハビリテーション･地域作業療法①	F-3-1)	谷口
2	地域リハビリテーション･地域作業療法②	F-3-1)	谷口
3	地域リハビリテーション･地域作業療法③	F-3-1)	谷口
4	住環境整備･福祉用具①	F-3-3)	谷口
5	住環境整備･福祉用具②	F-3-3)	谷口
6	住環境整備･福祉用具③	F-3-3)	谷口
7	住環境整備･福祉用具④	F-3-3)	谷口
8	職業リハビリテーション（就労支援）①	F-3-2)	谷口
9	職業リハビリテーション（就労支援）②	F-3-2)	谷口
10	職業リハビリテーション（就労支援）③	F-3-2)	谷口
11	領域別の地域作業療法①司法領域	F-3-1)	谷口
12	領域別の地域作業療法②発達障害領域（学校等）	F-3-1)	谷口
13	領域別の地域作業療法③災害リハビリテーション	F-3-1)	谷口
14	領域別の地域作業療法④精神障害領域	F-3-1)	谷口
15	領域別の地域作業療法⑤精神障害領域	F-3-1)	谷口

	評価手段	割合(%)	基準および方法
成　績　評　価	定期試験		評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験･レポート 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	レポート		

科目区分：　基礎作業療法学　　(51)　令和６年度

科　目　名	老年期障害作業療法治療学演習	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	谷口　賢一	実務経歴	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションでの実務経験がある。
担　当　教　員	高橋　真紀 谷口　賢一		
概　　要	老年期の特徴とリハビリテーションについての理解を深め、老年期をとりまく社会資源を知り、その連携のあり方を探る。また、老年期に対する作業療法とその役割を考える。		
一般目標（GIO）	高齢期障害に対する基本的な作業療法について理解する。(F-2-7)		

教　　科　　書	標準作業療法学（専門分野）高齢期作業療法学　第３版　医学書院 高齢期における認知症のある人の生活と作業療法　第２版　三輪書店
参考書・教材	
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO（対応 CC）	担当教員
1	オリエンテーション、高齢者の特徴・疾患、高齢者用体操プログラム	F-2-7)	高　橋
2	高齢者の時代背景を知ろう①	F-2-7)	高　橋
3	高齢者の時代背景を知ろう②	F-2-7)	高　橋
4	高齢者の時代背景を知ろう③	F-2-7)	高　橋
5	症例検討①	F-2-7)	高　橋
6	症例検討②	F-2-7)	高　橋
7	高齢者とのコミュニケーション	F-2-7)	谷　口
8	認知症の評価・作業療法①	F-2-7)	谷　口
9	認知症の評価・作業療法②	F-2-7)	谷　口
10	認知症の評価・作業療法③	F-2-7)	谷　口
11	認知症の評価・作業療法④	F-2-7)	谷　口
12	Activity体験学習	F-2-7)	高　橋
13	症例検討③	F-2-7)	高　橋
14	症例検討④	F-2-7)	高　橋
15	評価実習を終えて・試験に向けて・まとめ	F-2-7)	高　橋

成　績　評　価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。

科目区分：　作業療法治療学　　(38)　令和５年度

科　目　名	疾患別作業療法評価学演習Ⅱ	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡　幹彦	実務経験	総合病院にて４年半、運動器障害、神経障害、内部障害の評価に従事した。
担　当　教　員	白田　典正 谷　　紅		
概　　要	運動器障害・神経障害・内部障害により生じる代表的疾患に対する、基本的な評価方法や知識を座学で学習する。その後、評価のオリエンテーション、実技、結果の記載、結果の解釈を、模擬評価を中心とした授業形態で行う。		
一般目標（GIO）	・運動器障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる(F1-2 ①②) ・神経障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる(F1-3 ①②) ・内部障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる(F1-4 ①②)		

教　　科　　書	・「標準作業療法学　作業療法評価学　第２版」　医学書院 ・「PT・OT ビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学」　羊土社
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回		授業内容	SBO（対応 CC）	担当教員
1・2	09/21	高次脳機能障害①☆	F1-3 ①②	福岡
3・4	09/28	高次脳機能障害②☆	F1-3 ①②	福岡
5・6	10/05	動作分析①	F1-3 ①②	福岡
7・8	10/12	動作分析②	F1-3 ①②	福岡
9・10	10/19	動作分析③	F1-3 ①②	福岡
11・12	10/26	動作分析④	F1-3 ①②	福岡
13・14	11/02	手外科、末梢神経障害☆	F1-2 ①②	谷
15・16	11/09	熱傷、切断☆	F1-2 ①②	谷
17・18	11/17*	脊髄損傷①☆	F1-2 ①②	白田
19・20	11/30	脊髄損傷②☆	F1-2 ①②	白田
21・22	12/07	嚥下障害（喀痰、吸引含む）☆	F1-3 ①②	白田
23・24	12/14	糖尿病☆	F1-4 ①②	白田
25・26	12/18*	終末期作業療法☆	F1-4 ①②	福岡
27・28	12/21	神経筋疾患①☆	F1-3 ①②	福岡
29・30	12/25*	神経筋疾患②☆	F1-3 ①②	福岡

成　績　評　価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	60	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験およびレポート得点を合算して 60 点以上。また、出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	レポート	40	